

令和 3 年 6 月 16 日現在

機関番号：82602

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2020

課題番号：15K01129

研究課題名(和文)新・未活用資料と定量的手法を用いた明治期以降わが国の人口史・疾病史・医学史の分析

研究課題名(英文)Quantitative analysis of historical demography, disease, and medicine in modern Japan using new or unutilized statistics

研究代表者

逢見 憲一 (Ohmi, Kenichi)

国立保健医療科学院・その他部局等・主任研究官

研究者番号：70415470

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：わが国の明治期以降の統計資料を用いて、わが国の近代化と人口転換・疾病構造転換の過程を定量的に分析することにより、先進国における近代化と人口転換・疾病構造転換の過程を明瞭にすることを旨とした。従来、分析が十分に行われてこなかった第二次大戦前の時期を中心に、明治期以降現代にいたるわが国の人口・疾病構造の転換、また医療公衆衛生体制の推移について定量的に明らかにしてきた。残る課題については、令和3-7年度「わが国明治期以降の人口・疾病・医学史と医療・公衆衛生の役割に関する定量的再構成」((基盤研究(C))課題番号21K00260)において明らかにしていく予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、分析が十分に行われてこなかった第二次大戦前の時期を中心に、明治期以降現代にいたるわが国の人口・疾病構造の転換、また医療公衆衛生体制の推移について定量的に明らかにしてきた。それらの研究を進める過程で、医学教育、保健所と地域保健、わが国の死亡率と平均寿命について、既存の研究は戦前と戦後の断絶を前提にしており、戦前・戦中・戦後の連続性を主張すること自体が受け入れられにくい、という状況を見出した。また、死亡率の分析において、死因分析が特に死亡診断との関連において行われていない、また、特に第二次大戦前の死亡統計分析と衛生行政との関連が研究されていない、等の問題点も見出した。

研究成果の概要(英文)： We have made a progress in clarifying the process of modernization, demographic transition, and disease structure transformation in Japan, with quantitative analysis using statistical data from the Meiji era onward. Quantitatively clarifying the changes in Japan's population and disease structure from the Meiji era to the present, and the transition of the medical and public health system, especially focusing on the period before World War II, which has not been sufficiently analyzed in the past.

The remaining issues will be clarified in Reiwa 3-7 "Quantitative Reconstruction of Population, Disease, Medical History and the Role of Medical Care and Public Health after the Meiji Era in Japan" ((Basic Research (C)) Issue No. 21K00260). I plan to do it.

研究分野：保健統計、公衆衛生史、医学史

キーワード：人口動態統計 生命表 年齢調整死亡率 水島治夫 超過死亡 予防接種 医療の役割 スペインかぜ

1 . 研究開始当初の背景

わが国は、開国・明治維新以降、急速に近代的西洋医学を導入し 100 年あまりの間に産業や社会制度を近代化する一方で、他の先進諸国と比較して短期間の間に人口構造は多産多死型から少産少死型へ、疾病構造は感染症中心の短命型から世界 1,2 位の平均寿命を誇る社会へと急速に変貌を遂げた。一方で、わが国においては、例えば人口動態統計が 1899 年に全国的な統計調査として確立されるなど、その近代化・人口転換・疾病構造の転換の過程が大きく網羅される形で正確な統計資料が残されている。このような国は世界に類例がほとんどなく、わが国の統計資料を用いて医療構造・人口・疾病構造転換の過程を定量的に分析することは、先進国における近代化と医療・人口・疾病構造転換の過程を知り、ひいては現代の発展途上国における健康水準向上のための政策を検討する上で得難い貴重な知見を提供するものと考えられた。

しかし、公衆衛生学・公衆衛生史の分野においては、わが国の死亡水準の改善を語る際には第二次大戦以降を対象とする場合が多く、まれに戦前を分析する場合でも国勢調査が開始された 1920(大正 9)年以降を対象とすることがほとんどであり、感染症中心から慢性疾患への疾病構造の転換は、漠然と概念的・定性的に語られてきた。

また、疾病や医療・公衆衛生を対象とした歴史学・歴史社会学は、比較的新しい分野であるばかりでなく、文献的・記述的な研究が中心である。

さらに、わが国の人口学、とくに歴史人口学においても、近年では、死亡人口学は比較的手薄であり、かつ、歴史人口学においても過去帳を用いるなどした江戸時代の分析が中心である。

2 . 研究の目的

本研究では、これまで分析が十分に行われてこなかった第二次大戦前の時期を中心に、明治期以降現代にいたるわが国における人口・疾病構造の転換、また衛生統計から知られる医療公衆衛生体制の推移について各種統計を用いて定量的に明らかにすることを目指した。

3 . 研究の方法

現時点で存在が明らかにされている統計資料(各府県(市)統計書,各府県(市)衛生年報類)は、収集の後、書誌的な分析(発行時期(特に開始年),項目(地域・性・年齢・死因・月))など基礎的な分析と整理を行った。

また、必要に応じて新しい手法を検討した。

4 . 研究成果

平成 27 年度は、沖縄県公文書館資料、国立国会図書館資料等の資料の発掘と収集、基礎的分析を行い、帝国人口動態統計、琉球統計年鑑、沖縄県公文書館資料による人口動態調査報告、沖縄県統計課人口動態調査報告等のデータ入力を行った。

それらの資料およびデータを用いて、学術論文「水島府県別生命表における刊行経緯および作製方法の書誌的変遷と『<公刊前>1921-25 年分府県別生命表』の作製時期」および「水島府県別生命表における死亡統計届出の正確性に関する認識の変化 “ 沖縄 = 伝統的長寿県 ” 説との関連」を執筆、日本医史学雑誌に原著論文として投稿し掲載可とされた。

平成 28 年度は、沖縄県公文書館資料、国立国会図書館資料等の資料の発掘と収集、基礎的分析を行い、人口動態統計、沖縄県統計課人口動態調査報告等のデータ入力を行った。

それらの資料およびデータを用いて、学術論文「水島府県別生命表における刊行経緯および作製方法の書誌的変遷と『<公刊前>1921-25 年分府県別生命表』の作製時期」および「水島府県別生命表における死亡統計届出の正確性に関する認識の変化 “ 沖縄 = 伝統的長寿県 ” 説との関連」を執筆、前者は日本医史学雑誌平成 28 年 9 月号に、後者は同年 12 月号に掲載された。

平成 29 年度は、インフルエンザワクチン需要予測に関する研究、抗インフルエンザ薬の使用状況、全国医学部長病院長会議による医学教育カリキュラムの現状調査、帝国大学一覽等の資料の発掘と収集、基礎的分析を行った。

また、それらの資料およびデータを用いて、「わが国におけるインフルエンザに対する学童集団接種、任意接種の比較」「近年わが国の高齢者インフルエンザ超過死亡と予防接種、投薬、ウイルス循環の役割」「出生年コホート別にみたインフルエンザ超過死亡と予防接種、投薬、ウイルス循環の役割」などの分析の取りまとめ、海外学術誌に投稿した。さらに、上記データ入力結果を用いて、「沖縄における人口統計精度の長期推移 人口動態統計、国勢調査・住民基本台帳人口の比較」として、人口動態積算法により、沖縄の出生数、死亡数、および国勢調査人口の正確性を検討することを試みた。また、上記発掘資料を用いて、「日本の臨床医学教育における

医師と医学の原像」として、分析を取りまとめた。

平成30年度は、インフルエンザワクチン需要予測に関する研究、抗インフルエンザ薬の使用状況、全国医学部長病院長会議による医学教育カリキュラムの現状調査、帝国大学一覧等の資料の発掘と収集、基礎的分析を行った。

また、それらの資料およびデータを用いて、「わが国におけるインフルエンザに対する学童集団接種、任意接種の比較」「近年わが国の高齢者インフルエンザ超過死亡と予防接種、投薬、ウイルス循環の役割」「出生年コホート別にみたインフルエンザ超過死亡と予防接種、投薬、ウイルス循環の役割」などの分析の取りまとめ、海外学術誌に投稿した。さらに、上記データ入力結果を用いて、「沖縄における人口統計精度の長期推移 人口動態統計、国勢調査・住民基本台帳人口の比較」として、人口動態積算法により、沖縄の出生数、死亡数、および国勢調査人口の正確性を検討することを試みた。また、上記発掘資料を用いて、「日本の臨床医学教育における医師と医学の原像」として、分析を取りまとめた。

令和元年度は、人口動態統計毎月概数、大日本私立衛生会雑誌、日本公衆保健協会雑誌、公衆衛生、等の資料の発掘と収集、の分析を行った。

また、上記発掘資料を用いて、わが国の平均寿命延長に医療・公衆衛生の果たした役割を定量的に検討した学術論文「わが国の平均寿命延長の年齢構造と医療・公衆衛生の役割 第4回から第22回生命表より」を執筆投稿し、受理掲載された。また、上記発掘資料を用いて、内務省保健衛生調査会設置から日中戦争・第二次大戦下での公衆衛生活動等について検討した。さらに、新型コロナウイルスのパンデミック対策の一助とすべく、わが国の“スペインかぜ”を含むインフルエンザパンデミックによる健康被害を定量的に把握し、あわせてわが国における公衆衛生行政の置かれていた状況を検討した。

令和2年度は、大日本私立衛生会雑誌、日本公衆保健協会雑誌、公衆衛生、等の雑誌の分析を行った。

また、わが国の“スペインかぜ”の流行した1918(大正7)年から1920(大正9)年の大正期において、わが国の衛生行政の置かれていた状況を検討するため、内務省衛生局『流行性感冒予防心得』(1919(大正8)年1月)と、大日本私立衛生会『予防注意書』(1919(大正8)年2月)における、「流行性感冒」に対する認識、対処方法、人々への指示や呼びかけの仕方等について比較した。

また、近年、わが国では、「老衰」死亡が増加するなど、死因別死亡に従来とは異なる変化が生じているため、近年の年齢調整死亡率低下の年齢・死因構造を分析し、指標としての有用性や活用方法を検討した。近年の年齢調整死亡率低下には、脳血管疾患の大幅な減少が寄与していた。一方で、老衰等の本来死因としては認めがたい死亡、あるいはその他として分類される死亡が増加しており、この現象の究明が必要であるとの課題が明らかとなった。

総括としては、本研究課題において、従来、分析が十分に行われてこなかった第二次大戦前の時期を中心に、明治期以降現代にいたるわが国の人口・疾病構造の転換、また医療公衆衛生体制の推移について定量的に明らかにしてきた。残る課題については、令和3-7年度「わが国明治期以降の人口・疾病・医学史と医療・公衆衛生の役割に関する定量的再構成」((基盤研究(C))課題番号21K00260)において明らかにしていく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 14件）

1. 著者名 逢見憲一	4. 巻 86(2)
2. 論文標題 わが国の平均寿命延長の年齢構造と医療・公衆衛生の役割 第4回から第22回生命表より	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本健康学会誌(旧称：民族衛生)	6. 最初と最後の頁 47-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 逢見憲一	4. 巻 66(1)
2. 論文標題 沖縄長寿説の成立と展開 琉球政府第1回生命表と関連資料からの分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本医史学雑誌	6. 最初と最後の頁 101-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 逢見憲一	4. 巻 66(1)
2. 論文標題 1889～2014年のインフルエンザ超過死亡と公衆衛生 ウイルス循環，経済水準，予防接種の役割	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本医史学雑誌	6. 最初と最後の頁 98-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 TAKEMURA Shinji, OHMI Kenichi, SONE Tomofumi	4. 巻 69(1)
2. 論文標題 Public health center (Hokenjo) as the frontline authority of public health in Japan: Contribution of the National Institute of Public Health to its development	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of the National Institute of Public Health	6. 最初と最後の頁 2-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Ohmi K, Suzuki A.	4. 巻 14(2)
2. 論文標題 Evaluating the Impact of the 1918-1920 Influenza Pandemic in Pre-War Imperial Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Social Science Diliman	6. 最初と最後の頁 76-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 逢見憲一	4. 巻 64(4)
2. 論文標題 医学史・医療史と公衆衛生 マキューン・テーゼから歴史人口学へ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本医史学雑誌	6. 最初と最後の頁 413-416
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 逢見憲一	4. 巻 41(1)
2. 論文標題 沖縄長寿説の成立と展開 水島治夫 『<公刊前>1921-25年分府県別生命表』を発端として	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人口学研究	6. 最初と最後の頁 112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 逢見憲一	4. 巻 82(3)
2. 論文標題 保健所法から地域保健法へ 戦前・戦中・戦後のわが国の公衆衛生の発展	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 公衆衛生	6. 最初と最後の頁 188-194
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 逢見憲一	4. 巻 63(3)
2. 論文標題 水島治夫の府県別生命表と旧植民地生命表，琉球政府生命表	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本医史学雑誌	6. 最初と最後の頁 344-346
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 逢見憲一	4. 巻 62
2. 論文標題 水島府県別生命表における刊行経緯および作製方法の書誌の変遷と『<公刊前>1921-25年分府県別生命表』の作製時期	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本医史学雑誌	6. 最初と最後の頁 253-272
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 逢見憲一	4. 巻 62
2. 論文標題 水島府県別生命表における死亡統計届出の正確性に関する認識の変化 “沖縄 = 伝統的長寿県” 説との関連	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本医史学雑誌	6. 最初と最後の頁 395-412
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 逢見憲一	4. 巻 86(5)
2. 論文標題 水島治夫らの植民地生命表研究にみる第二次世界大戦前・戦中の医学研究再考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本健康学会誌(旧称：民族衛生)	6. 最初と最後の頁 209-223
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 逢見憲一	4. 巻 67(1)
2. 論文標題 近代日本の感染症対策と地域社会	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本医史学雑誌	6. 最初と最後の頁 119-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 逢見憲一	4. 巻 67(1)
2. 論文標題 スペインかぜ流行とわが国の衛生行政 内務省衛生局『流行性感冒予防心得』と大日本私立衛生会『予防注意書』の比較を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本医史学雑誌	6. 最初と最後の頁 113-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 逢見憲一	4. 巻 66(4)
2. 論文標題 公衆衛生教育の黎明 ロックフェラー財団から国立公衆衛生院へ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本医史学雑誌	6. 最初と最後の頁 400-408
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計36件(うち招待講演 10件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 " 沖縄 = 伝統的長寿県 " 説の成立 沖縄県公文書館蔵『琉球政府第1回生命表』の分析
3. 学会等名 第119回日本医史学会総会, 鹿児島
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 近代わが国の平均寿命延長の年齢構造と医療・公衆衛生の役割：第4回～22回生命表より
3. 学会等名 日本人口学会第71回大会，高松
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 1995年～2015年のわが国における平均寿命延長の年齢および死因構造と公衆衛生の役割1995年～2015年のわが国における平均寿命延長の年齢および死因構造と公衆衛生の役割
3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会，高知
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 2000年～2015年のわが国における年齢調整死亡率低下の年齢・死因構造
3. 学会等名 第84回日本健康学会(旧称：民族衛生学会)総会，長崎
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 2000年～2015年のわが国における年齢調整死亡率低下の年齢・死因構造
3. 学会等名 第30回日本疫学会学術総会，京都
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 メインシンポジウム 優生保護統計等にもみる人口政策
3. 学会等名 第84回日本健康学会(旧称：民族衛生学会)総会，長崎（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 ミニシンポジウム 京城帝国大学における水島治夫の植民地生命表研究
3. 学会等名 第84回日本健康学会(旧称：民族衛生学会)総会，長崎（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 近代わが国の平均寿命延長の年齢構造と医療・公衆衛生の役割
3. 学会等名 科研基盤研究A 「20世紀日本の長期療養型疾患の歴史 - ハンセン病・精神疾患・結核の比較統合的研究」 2019年度 中間報告会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 沖縄長寿説の成立と展開 琉球政府第1回生命表と関連資料からの分析
3. 学会等名 日本医史学会 令和元年11月例会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 “ 沖縄 = 伝統的長寿県 ” 説の成立 沖縄県公文書館蔵『琉球政府第1回生命表』の分析
3. 学会等名 第119回日本医史学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 住民基本台帳人口および国勢調査人口を用いた都道府県別年齢調整死亡率の比較検討
3. 学会等名 第77回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 わが国の1959-94年におけるインフルエンザ学童集団予防接種率の推移
3. 学会等名 第83回日本健康学会(旧称：民族衛生学会)総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 医学史・医療史と公衆衛生 マキューン・テーゼから歴史人口学へ
3. 学会等名 日本医史学会シンポジウム：わたしはなぜ医学史・医療史をまなぶのか(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 伝統的健康観と近代的健康観の相克と融合
3. 学会等名 第82回日本健康学会(旧称:日本民族衛生学会)総会サテライトセッション(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 沖縄長寿説の成立と展開 水島治夫 『<公刊前>1921-25年分府県別生命表』を発端として
3. 学会等名 日本人口学会九州地域部会2017年度研究会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 1889～2014年のインフルエンザ超過死亡と公衆衛生 ウィルス循環, 経済水準, 予防接種の役割
3. 学会等名 日本医史学会平成29年5月例会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 沖縄長寿説の成立と展開 水島治夫 『<公刊前>1921-25年分府県別生命表』を発端として
3. 学会等名 第82回日本健康学会(旧称:民族衛生学会)総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 近年わが国の高齢者インフルエンザ超過死亡と予防接種，投薬，ウイルス循環の役割
3. 学会等名 第76回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kenichi Ohmi
2. 発表標題 The change of Japanese vaccination system and its influence on the excess mortality from influenza: mandatory mass schoolchildren vaccination or optional vaccination?
3. 学会等名 21st International Epidemiological Association (IEA) World Congress of Epidemiology (WCE2017) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 第二次大戦後のわが国80大学の医学教育カリキュラムにみる“アメリカ医学”の変容
3. 学会等名 第118回日本医史学会総会・学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 明治中期以前の東京(帝国)大学医学教育カリキュラムにみる“ドイツ医学”の変容
3. 学会等名 第117回日本医史学会総会・学術大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 琉球政府生命表における生命表・乳児死亡精度に関する認識と“沖繩 = 伝統的長寿県”説
3. 学会等名 日本人口学会第68回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 占領期沖繩における乳児死亡届出の正確性に関する認識と“沖繩 = 伝統的長寿県”説
3. 学会等名 第75回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 占領期沖繩における乳児死亡届出の正確性に関する認識と“沖繩 = 伝統的長寿県”説
3. 学会等名 第81回日本民族衛生学会総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 地域健康指標としての生命表の精度 - 沖繩の出生・死亡と平均寿命の長期推移の分析例 -
3. 学会等名 第116回日本医史学会総会・学術大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 水島府県別生命表における刊行経緯，方法の変遷と生命表精度に関する認識
3. 学会等名 日本人口学会第67回大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 医学教育カリキュラムにみる“ドイツ医学”“アメリカ医学”の変容 - 近代日本医学の通奏(執拗)低音 -
3. 学会等名 第47回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 水島府県別生命表における刊行経緯，方法の変遷と戦前沖縄の乳児死亡精度に関する認識
3. 学会等名 第74回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 水島府県別生命表における刊行経緯，方法の書誌的変遷と生命表精度に関する認識
3. 学会等名 第80回日本民族衛生学会総会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 スペインかぜ流行期を含む第二次世界大戦前期のインフルエンザ超過死亡と“流行性感冒”罹患，死亡の推移
3. 学会等名 第31回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 スペインかぜ流行とわが国の衛生行政 内務省衛生局『流行性感冒予防心得』と大日本私立衛生会『予防注意書』の比較を中心に
3. 学会等名 第85回日本健康学会(旧称：民族衛生学会)総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 1899～1975年のわが国のインフルエンザ超過死亡：“スペインかぜ”と公衆衛生
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 国民優生法・優生保護法下の不妊手術・人工妊娠中絶に関する定量分析
3. 学会等名 日本人口学会第72回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 国民優生法による第二次大戦前後(1941～47年)の優生手術・不妊手術件数の定量分析
3. 学会等名 第120回日本医史学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 スペインかぜ流行とわが国の衛生行政 内務省衛生局『流行性感冒予防心得』と大日本私立衛生会『予防注意書』の比較を中心に
3. 学会等名 公益法人山形県生涯学習文化財団 令和2年度「山形学」講座 人々は疫病をどう乗り越えてきたか(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 逢見憲一
2. 発表標題 スペインかぜ流行とわが国の衛生行政 内務省衛生局『流行性感冒予防心得』と大日本私立衛生会『予防注意書』の比較を中心に
3. 学会等名 日立財団(倉田奨励金)オンラインヒストリーカフェ「医学と医療の歴史」「医療史家が語る感染症の歴史」2日本史におけるパンデミック(招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 逢見憲一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 弘文堂	5. 総ページ数 10
3. 書名 In: 丸井英二編. わかる公衆衛生学・たのしい公衆衛生学	

1. 著者名 逢見憲一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 2
3. 書名 ワクチン接種と乳幼児死亡率低下 . In: 日本人口学会編 . 人口学事典	

1. 著者名 逢見憲一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 38
3. 書名 日本の臨床医学教育における医師と医学の原像と“執拗低音” “ドイツ医学”と“アメリカ医学”の変容に関する一試論 . In: 坂井建雄編 . 医学教育の歴史 古今と東西	

1. 著者名 Kenichi Ohmi	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Indiana University Press	5. 総ページ数 28
3. 書名 The Roots of Modern Japanese Medical Education, Kenichi Ohmi, In Chen LC, Reich MR, Ryan J ed., Medical Education in East Asia: Past and Future	

1. 著者名 逢見憲一	4. 発行年 2016年
2. 出版社 メヂカルフレンド社	5. 総ページ数 10
3. 書名 公衆衛生の歴史 , In: 佐々木明子・井原一成編 . 新体系 看護学全書 公衆衛生学	

1. 著者名 逢見憲一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善	5. 総ページ数 2
3. 書名 スペイン風邪 . In: 日本医史学会編 . 医学史事典	

1. 著者名 逢見憲一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善	5. 総ページ数 2
3. 書名 公的医療保険の始まり . In: 日本医史学会編 . 医学史事典	

1. 著者名 逢見憲一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善	5. 総ページ数 2
3. 書名 医療の国家管理 . In: 日本医史学会編 . 医学史事典	

1. 著者名 逢見憲一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善	5. 総ページ数 2
3. 書名 厚生省の誕生 . In: 日本医史学会編 . 医学史事典	

1. 著者名 逢見憲一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善	5. 総ページ数 2
3. 書名 人口問題とその対策 . In: 日本医史学会編 . 医学史事典	

1. 著者名 逢見憲一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善	5. 総ページ数 2
3. 書名 死亡統計 . In: 日本医史学会編 . 医学史事典	

1. 著者名 逢見憲一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善	5. 総ページ数 2
3. 書名 医学史と人口学 . In: 日本医史学会編 . 医学史事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------